



第9号

発行 平成18年5月25日

茨城県立図書館

ボランティア協議会広報委員会

文責 黒沢 英宣

かがやき

目次

茨城県立図書館 館長あいさつ

子どもの日、青空のもとにぎやかに ~ 読書フェスティバル開催 ~

恵美三紀子先生をお迎えして ~ 代読ボランティアの自主研修 ~

ある日のインタビュー ~ 資料配架ボランティアの日常活動 ~

イベントボランティアって？

パソコン研修のきのう・今日

全国図書館大会に参加して

編集後記



「輝」は架け橋



茨城県立図書館 館長 千葉 正仁

三の丸界限から鯉のぼりの泳ぐ姿が消え、充実した緑の輝きを迎える季節となりました。

日頃の皆様のご活躍に深甚なる謝意を表しますと同時に、各分野において、ひたむきに活動するお姿に感動すら覚えております。加えて、昨年度は第91回全国図書館大会において、様々な形でご参加ご協力をいただき、改めてお礼申し上げます。

さて、今年度当初のボランティア登録者数は、11分野において176人となっております。

ます。

活動日数や曜日に差があり、なかなか本来の目的を達成し得ないと感じている方もおられるでしょうが、そういう懸念を払拭してくれるのがこの「輝（かがや



き)」です。広報ボランティアの皆様が様々な情報を発信しておられます。熟読していただければ、普段顔を合わせることもない方々の架け橋ともなるでしょう。

最近、「住民による図書館支援のあり方」という講話を聞く機会がありました。新規

開館 6 年目となる県立図書館にとりまして、大いに参考となる内容でした。今年度はその内容を良く咀嚼し、新たな展開へスタートできるよう努力して参りますので、皆様におかれましては、健康に留意され、引き続きご活躍されますことを期待いたします。

子どもの日、青空のもとにぎやかに



～ 読書フェスティバル開催 ～



「魔女おばさんの本づくり教室」探訪記

授業開始時間には、良い子、ママ、パパが勢ぞろい、予備席までも満席で総勢 150 人を越えていました。さらに入り口受付には親子の行列、大変な人気イベントと言えるでしょう。

各机にびっしりと席を占めた親子には、魔女おばさんの説明の声が十分に聞こえたのかな、と気になってしまいました。それぞれが配布された矩形の用紙を、説明にしたがって二つ折りし、糊で貼り合わせてミニ本を創り、中央のページに口を開けた動物の顔を描き、他のページには、思い思いに文章を書き込み、表紙に見出しと作者名を書き込むという作業の流れでした。

行程経過 1 時間、手早い子どもは力作が出来上がって、自分のミニ図書への満足感

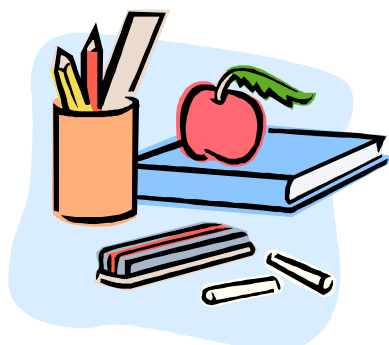
からか、わが手に持って目を輝かせている光景を見ることができました。皆々、親子とも夢中になっての作業、時々、手迷うと、魔女先生やボランティア（女性 2、男性 2）に助言、協力を求めていましたが、それぞれ独創的製作ぶりで、まことに楽しい光景でした。

終了時間前 20 分
魔女おばさんの提案で、自分の作ったミニ本を次々に朗読、挿絵を参加者に見てもらうことになりました。

次々と壇上に上がる子どもたちの利発な姿、はきはきした読み方にはただ感心するばかりでした。このひとときばかりは、子どもたちの熱気に包まれ、エアコンも効かない中、少子化時代を忘れてしまう 1 時間半でした。



〔広報 上條 哲〕



「着ぐるみ」体験者にインタビュー

～「へとへと、くたくた……」～

暖かい日差しのごどもの日、図書館の庭にのっし、のっしと着ぐるみが歩いていきます。この陽気ではさぞ暑いことだろうと大いに同情しつつ、付かず離れず観察していました。



子どもたちはおお喜び、握手を求めたり、話しかけたりしますが、あのおおきなかぶりものからは答えが聞こえてきません。すると着ぐるみのお腹をなぐったり、お尻を

たたいたりする悪童に転じるこどももいました。

着ぐるみの中の男性に聞いてみました。返事はやはり聞こえません。全身で示す態度での答えでした。それは、「こどもたちの喜び方は嬉しい、汗だくのそぞろ歩きはかなり厳しい、でもやってみたくて買ったので頑張ってみます。」いやいや全くご苦労様でした。

次に、女性の着ぐるみ活動を終えた方に、インタビューを申し込むことにして、女性更衣室の前で一言体験談をいただきたいと伝言を頼んだところ、「へとへと、くたくたで声を出す元気も残っていません。悪しからずお許しを」とのお返事でした。この言葉で着ぐるみに入って子どもたちと交わる方のご苦労を十二分に察することができました。

〔広報 上條 哲〕

水戸西ロータリークラブからの 支援金(50,000円)の用途について

水戸西ロータリークラブの皆様から、私達のボランティア活動に深くご理解を賜り、昨年8月、上記の支援金をいただきました。誠にありがたく深く感謝申し上げます。支援金は、ボランティア協議会名で通帳を作成し、「特技を活かしたボランティア」委員長福田陽一様が会計担当として経理を処理されています。

用途については、つぎのとおり報告します。

- (1) H17.8.21 および H18.3.12 開催の児童サービスボランティア研修会講師謝礼として 20,000円
- (2) H18.5.29～30 開催の代読サービスボランティアの音訳ボランティア全国大会参加にあたり、出席者の東京往復旅費の補助として 30,000円
支出については、要望のあった中から、ボランティア協議会において審議し決定しましたので、申し添えます。

恵美三紀子先生をお迎えして

かねてより希望の多かった恵美先生の講習を4月12日に受けることが出来ました。

午前は音声訳の基本のお話でした。音声訳図書には表現技術、調査技術、配慮技術、録音技術、校正技術、編集技術の六つの要素が不可欠であり、実例を挙げての説明はわかり易く即、役立つものでした。

和やかな昼食の後、会員が吹き込んだテープを聴いて頂き丁寧なご指導を受けまし

代読ボランティア 丹 協子

た。ひとりひとりの質問や悩みなど、時間をオーバーしてのご指導に、皆刺激を受けました。今回このような講習を受けたのは平成13年以来のことです。音声訳と朗読の違いについても考える機会になりました。

毎年11月に開催される読書フェスティバルの古本マーケットで得た益金を利用させて頂きました。このような機会を頂きご尽力頂いた方々に厚く御礼申し上げます。

ある日のインタビュー

～ 資料配架ボランティアの日常活動 ～

4月20日、館内で配架活動中の黒屋亜紀子さん、大島みち子さんに予告なしのインタビューをしました。快く応じてくださいました。

この活動の中で見つけた楽しいことは？

- ・黒屋さん 好きな本に囲まれている幸福感と、ボランティアをしながら自分も楽しんでいることが喜びです。
- ・大島さん 返却された図書を整理番号順に戻しながら、途中で思いがけない本に出会うことがあります。自分の読書欲がかきたてられる楽しさと同時に奥深さを感じています。

最近改善されたことは？

- ・台車が入ってから、重さの負担が軽減されたことです。

大変だなと思うのはどんな時？

- ・分類番号順に高い棚、次には下段の棚と繰り返す作業です。

配架ボランティアの現状は？

- ・登録している人は54人、実際に活動している人は15～20人くらいです。土曜・日曜・火曜は返却の図書が増えるので、

活動できる人が多くなると良いと思います。懇親会は年に1～2回で、その時に各自の希望をとり入れてスケジュール表を作っています。

黒屋さん、大島さんの活動の状況は？

- ・来館は週に2～3回で、1回の活動時間は2～3時間位です。



大島さんはボランティア歴2年目、退職後、募集をみて参加したと終始にこやかに話してくれました。

黒屋さんは委員長として着実な活動を続けています。

ありがとうございました。

〔広報 金澤 鈴枝〕

*** イベントボランティアって? ***

【活動内容】視聴覚ホールや3階の会議室などで行われる、主に県立図書館主催の行事(イブニングシアター、教室、コンサートなど)の会場での受付、資料配布、会場整理、案内、参加者名簿による出欠記録、後片付け、などが主な活動内容です。

【活動の方法】参加できるイベントボランティアは、ボランティア室に掲示された「行事計画表」を見て、参加協力する行事欄の右側のボランティア氏名欄にあらかじめ氏名を記入しておく。(当日、会場直行でも良い。)

イベントボランティア 黒沢 英宣

行事当日は、ボランティアエプロンを着けて40分前に会場に入る。

職員の仕事を手伝い、行事のスムーズな運営のために協力する。

ボランティア室に備え付けの「活動記録簿」に記録する。

【今後の課題】通常の行事に積極的に参加協力する。

図書館フェスティバル(春・秋)には、自主的に参加する。

イベントの自主企画・運営を試み、新しい方向性を見出す。

イベントボランティア以外の方で、このボランティアをしてみたい方は、普及課柳橋さんまでお申し出ください。

パソコン研修のきのう・今日

全国のお家庭の70%にパソコンが普及したといわれ、小学生から高齢者までがキーを叩く時代となっている。福田陽一氏が特殊技能者として県立図書館のボランティアに仲間入りされ、広報委員会は「輝(かがやき)」の発行にご支援を願い、以後、多大なご尽力を賜っている。

さらにパソコンの自主研修会の指導にもご協力をいただき、今日に至っている。受講者の顔ぶれは入れ替わったが、発足時からの唯一の長期受講者である私と、熟達の女性を含め、図書修理ボランティアの数人が、先生とマンツーマンの勉強に励んでいる。

先生に毎週、丁寧にご教授いただくことはまことに有り難く幸せなことである。

さて、この受講者たちは、過日、先生がご指導されている図書館主催のパソコン2日間教室のアシスタントを勤めることを、先生から指示された。先生は「あなたの能力なら大丈夫、受講者はみんな初心者だから。」と、尻込みする女性の方々に言われた。

2日間でワード、エクセルの初歩を勉強するという教室で、先生のご苦労は大変だった。また、この体験は、我々にとっても良い勉強の機会となった。

今後とも奥深く幅広いパソコンと取り組み、精進を重ねたいと願っている。

〔広報 上條 哲〕

毎週木曜日 10:00~12:00まで、ボランティア室にて研修続行中。
ボランティアの方で、受講希望の方は、ボランティア室に備えてある
受講希望者記入用紙に記入の上、当日ご参加ください。



第 91 回全国図書館大会に参加して



代読サービスボランティア 益谷 さかえ

平成 17 年 10 月 27 日の午前、年齢 329 歳（醜いという意味だとか）まだ小魔女と称する有田道子さんの「本が大好きになる魔法をかけに今日もほうきで飛んでいます」という題での講演会がありました。印象に残ったことをあげてみます。一つ目は、「ものごとや提案された事に対して、否定的ではなく、まず肯定の気持ちで受け入れてみると、そこから何かが生まれてくる。」二つ目は、「ものごとには時期がある。スキンシップにも、絵本や物語に接するにも、それにふさわしい時期を逃さずに対応したい。」

「成る程、全く……」と思いながら拝聴しました。

魔女おばさん、ますます磨きがかかり、楽しく、有意義な講話でした。

午後は第 1 分散会「障害者サービスボランティア」に参加しました。私達茨城県立図書館代読サービスから、丹協子さんと立川みつよさん、筑波大図書館から一人と、

土浦市おもちゃライブラリーから二人の計五人が事例発表をし、次のような質疑が交わされました。

（１）3 館共通の悩みとして、サービスを受けたいという人達が少ない。

（２）ボランティアがサービスを提供できる時間帯が限られてしまう。これは、前項の要因のひとつになるのでしょうか

（３）サービスを受けたい人が、その場所まで行かなければならない。

（４）録音図書製作に関しての著作権問題。

（５）録音環境が整っていない。

ちょっとほっとしたことがひとつ。参加されていた視覚障害者の方が、雑音に関して、「あまり神経質にならなくてもだいじょうぶです。」と、おっしゃってくださったことです。

その言葉に甘えることなく、なるべく質の高い録音図書を提供できるように努力しなければ、と思いました。

編集後記

この冬の厳しい寒さをどうやらクリアーして、梅の 3 月、桜の 4 月を越え、風薫る 5 月になりました。

私たちも若葉のように、伸びやかな心と気分で、新年度も大いにボランティア活動に励みましょう。そして、参加する喜びを実感しましょう。

今年は、10 月 5 日～9 日まで第 18 回全国生涯学習フェスティバル（まなびピアいばらき 2006）が県内 6 市 1 町を開催地として開かれます。私たちも積極的にお手伝いしたいと願っています。なぜなら、私たちが実践している活動そのものが、生涯学習のひとつだからです。



〔黒沢 英宣〕